

|         |   |         |          |
|---------|---|---------|----------|
| 氏名      | 鎌田日出男   |         |          |
| 学位の種類   | 医学博士  |         |          |
| 学位授与番号  | 甲 第 472 号   |         |          |
| 学位授与の日付 | 昭和54年 3月31日   |         |          |
| 学位授与の要件 | 医学研究科外科系泌尿器科学専攻<br>(学位規則第5条第1項該当)                   |         |          |
| 学位論文題目  | 緑膿菌感染症の研究<br>— 泌尿器科領域における臨床分離株と<br>環境分離株に関する疫学的検討 — |         |          |
| 論文審査委員  | 教授 金政 泰弘  | 教授 野原 望 | 教授 折田 薫三 |

#### 学位論文内容の要旨

岡大泌尿器科における緑膿菌性尿路感染症の疫学的現況を知るため1976年6月より1977年12月に至る臨床分離136株と、1977年3月より12月に至る泌尿器科病棟内の環境分離78株を検討し、以下の成績を得た。なお緑膿菌の血清型、6種の抗生剤に対するdisc感受性、protease, elastase産生能を測定したがこれらはepidemiological markerとして疫学的解析に有用であった。

臨床分離136株中122株が型別可能でK型49, E型39, F型14, A型10であった。このうちF型6症例とB型2症例に交差感染を認める症例があり、これら症例ではカテーテル留置、カテーテル操作が大きな発症要因となっていた。

環境分離78株中68株が型別可能でE型33, K型19, B型10であった。この検出状況を経時的にみると、同一株が長期に亘って検出されることは少なく、変動を認める場合が多かった。この環境分離株は無害棲息型で、臨床の感染症よりの汚染は23.1%, 残り76.9%は環境に一過性に出現消失した。

#### 論文審査の結果の要旨

本研究は最近クローズアップされて来た日和見菌の一つである緑膿菌による尿路感染症の疫学的検討のために、岡大泌尿器科の入院・外来患者及び院内環境より得た多数の分離株について、血清型、抗生剤感受性及びPratease, elastase産生能をepidemiological markerとして詳細な解析を行い、臨床疫学上価値ある多くの知見を提供している。

よって、本研究は医学博士の学位を得る資格があると認める。